



東山小学校だより

(令和 2年3月3日)
町内配付3月10日

教育目標 「心豊かに たくましく 自ら学ぶ 東山の子」

3/4~3/24 臨時休校… 終業に思う…

先月27日の政府要請を受け、小千谷市では全小中特別支援学校の臨時休校が決定されました。期間は3月4日(水)~24日(火)で、臨時休業に入って1週間となります。現段階では、6年生は24日に卒業式を行う予定ですが、在校生は4月6日(月)の始業式まで登校日はありません。

休校の措置を知った子どもたちから「学校に来られなくなるのはイヤだ~つまらない」という言葉をたくさん聞きました。その度に、子どもたちが学校を楽しく思っていることを、少し嬉しく感じながら心が痛みました。

3月は、授業では1年間のまとめや総復習を行い、その他のあらゆる活動が卒業式に向けて結集していく中で、卒業する6年生も在校生も精神的に大きく成長する時です。その大切な時季に、このような形で休校となるのは甚だ残念ですが、「子どもたちの安全を第一に考える」という首相の言葉の重みも感じています。不意に訪れた年度末に、本年度を振り返ります。

平成31年度で始まり、5月から令和元年度となった今年度。東山小学校の子どもたちは、よく学び、よく遊び…正に「心豊かに たくましく 自ら学ぶ 東山の子」を体現してくれたと感じています。4人の1年生を迎え、とにかく元気にそして明るく、様々なことに取り組んでくれました。

1学期には、2年ぶりの1年生を迎える会、新たに授業日とした牛の角突き場所での闘牛の歌の披露や牛太郎を応援する様子。入場行進や牛太郎との力くらべ、閉会式の演出など新たな趣向を凝らした校区民運動会での子どもたちの姿は端的なところです。他にもいきいきサロンの皆様や、櫛を育てる会の皆様、東小や東中との交流…そして日頃の諸活動で子どもたちの生き生きと活動する微笑ましい姿があふれていました。夏休みに入ってすぐの親善水泳大会では10種目で個人入賞、女子リレー・メドレーリレーでどちらも2位入賞の快挙！1学期の充実ぶりを絵に描いたような入賞ラッシュでした。

親善陸上大会、全校縦割り遠足、校内持久走記録会、中越大震災の日、そして文化祭・学習発表会と行事が目白押し。2学期には、1学期にもまして子どもたちの頑張りや良い姿が見られました。加えて、1学期の中盤から取組を始めたスタディーサポート(SS)タイムが、各学級とも軌道に乗ってきて、家庭学習が充実してきたのを感じたところもありました。5,6年生には、自分なりに家庭学習や自学のことを考え、かなり質の良い自学ができるようになってきた人も出てきました。

そして3学期。小千谷市内の他校ではインフルエンザの流行がなかなか収まらない中、当校では3学期の出席停止は0。元気いっぱいの子もたちでしたが、雪不足で思うようにスキー授業が進まず、親善スキー大会も中止になり…何となくパツとしない雰囲気もありましたが、ポッチャ体験や全校アルペンスキー、またイベント委員会企画の熱血ドッチボール大会は、笑顔と歓声に包まれていました。

「6年生を送る会」

3日「6年生を送る会」がありました。短い準備期間の中で、1~5年生が6年生へ感謝の気持ちを伝えようと準備を進めてきました。

1年生の元気いっぱいのダンス。5年生企画の全校ゲーム「クイズ6年生に聞きました」、3,4年生の「ありがとう6年生」の詩と漢字、替え歌の発表。5年生のエンタメ(マジック)ショー…どれも6年生への感謝の気持ちいっぱいの出し物でした。

6年生からは、在校生へのプレゼント「牛の角突き清掃ボランティアで使う雑巾」と「錦鯉・杵つき餅・大げやきのキャラクター」が送られました。6年生が手分けして作った雑巾に「あとは頼んだよ」という、3人の思いを強く感じました。

当日は期せずして終業日となりました。六送会は正に子どもたちによる手作りの卒業式…一抹の寂しさと笑顔、何とも言えない充足感がありました。6年生が学校に残し伝えていくものを、5年生以下在校生がしっかりと受け継ぐ姿を見ました。「ありがとう！6年生!!がんばれ！在校生!!」



~~ 保護者の皆様へ ~~

ここまでは3日に校内発行したものを一部書き換えました。

臨時休校が始まって、ほぼ一週間が経ちました。子どもたちはお家でどのように過ごしているでしょうか。様々なニュース番組などが伝えるように、思うように外出できずストレスを溜めたり、メディアなどで時間を無駄にしたりはしていないでしょうか。

学校(担任)から臨時休校中に電話などで、度々連絡をさせていただきます。本人とはもちろんお父さんお母さんから様子をお聞かせいただくとありがたいです。何かご不明なことがありましたら、遠慮なく学校へお問い合わせください。

来年度より全面実施 新学習指導要領 その②

新学習指導要領の改定、全面実施についての続き…第2弾です。

これからの社会を創り出していく子供たちが、社会や世界に向き合い関わり合い、自分の人生を切り拓いていくために「必要となる・求められる・育成すべき資質・能力」について、Ⅰ「何ができるようになるか」、Ⅱ「何を学ぶか」、Ⅲ「どのように学ぶか」の3つ柱に整理してを示しており、それぞれに視点が示されています。

Ⅰ「何ができるようになるか」

- ①学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力」「人間性の涵養」
- ②生きて働く「知識・技能の習得」
- ③未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等の育成」

「何ができるようになるか」は詰まるところ、「目的・目標」であると同時に「評価」であると考えます。だいたい以前の学習活動は、いわゆる詰め込み型の②に近い「知識技能の習得」であったり、その後に進められてきた③の「思考力・判断力・表現力等の育成」であったりしました。今回の改定では、それぞれに「生きて働く」とか「未知の状況にも対応できる」という文言がついたことも注目ですが、何より①の「学びに向かう力」「人間性の涵養」が加えられ、①～③の3つの力をバランスよく育むことが求められています。

Ⅱ「何を学ぶか」＝教育課程や学習内容

- ①外国語の教科化と授業時数の増加

これまで「外国語活動」として行ってきましたが、高学年では正式な教科となります。年間35時限だった授業時数も、移行期間の50時限を経て次年度は70時限となります。内容は、これまで「聞く・話す」が中心だったものから、「読む・書く」活動が増えます。中学年は今回「外国語活動」として年間35時限行うことが示されましたが、東山小ではすでに年間50時限の外国語活動を行っていますので、中学年については大きく変わることはありません。

- ①道徳の教科化（「特別の教科＝道徳科」）

道徳の教科化については、平成30年度から先行実施されています。以前よりも事象を多面的に捉えたり、議論したりして価値観を広げ、自分の生き方について深く考えることが求められています。また教科となるので、以前にはなかった評価がつくこととなります。

- ③プログラミング教育の必修化

プログラミングを通して、論理的思考や問題解決能力を養います。プログラミングの教科ができるわけではなく、いずれかの教科の中に教育活動を位置づけて、計画的に学習します。

- ④キャリア教育の充実

以前行われていた進路指導より一歩踏み込んで、自分の将来に希望や夢をもち、その実現に向けて主体的に考えて行動することを大切にします。

Ⅲ「どのように学ぶか」＝授業の改善

- ①主体的な学び、②対話的な学び、③深い学び の実現

「主体的」「対話的」「深い」のそれぞれが何を指すかというより、この3つが密接に関わって「必要となる・求められる・育成すべき資質・能力」を高める良い学びになると考えます。単純に、「自分からやる気を出して、対話をして、いっしょうけんめいに学ぶ」というのではなく、「知りたいという好奇心が生まれ、双方向の活動や思考があって、技能や知識、思考力を高め、広げる質の高い学び」が日々の授業に求められるということです。

この「主体的、対話的で、深い学び」に対して、以前から感じるのはネットサーフィンに似ているということです。例えばyoutubeなどで何かの動画を見ると、関連ワードや内容によって次々と関連する動画が出てきます。視聴者は自らの興味の赴くままに、時間を忘れて次々と動画を見てしまいます。あの状態こそが「主体的で、対話的で、深い」状態ではないかと思うのです。授業の中で、学習内容に子どもたちの疑問が次々と生まれ、好奇心が深まり、次の疑問へと繋がっていく…そんな授業を創造することが求められています。

今回の改訂では、Ⅱのようにすぐに変わって分かりやすい部分がある一方で、Ⅰ、Ⅲのように、なかなか変化の見えにくい部分があります。また、解釈や実施がひじょうに難しいと感じるのは「評価」です。特に「学びに向かう力」「人間性の涵養」は何で測れば良いのでしょうか？いわゆるペーパーテストの点数だけで測れるものでないことは明白です。

これからの変化の激しい社会の中で、子どもたちがどのように生きていくのか、その態度や姿勢、その糧となる知識や技能をどう身につけていくのか。そしてそれらが身についたがどうかをどのように判断し、評価につなげていくか…改訂によって、学校の教育課程（活動）が大きく変わっていくことは確かです。

東山小学校では、これまでの移行期間中にも各活動のねらいや内容を見直すとともに、職員研修を重ねてきました。新学習指導要領の趣旨を踏まえ、より東山小学校の子どもたちに合った教育活動を模索していきたいと思っております。これまで同様、当校の活動にご理解、ご協力をお願いいたします。